



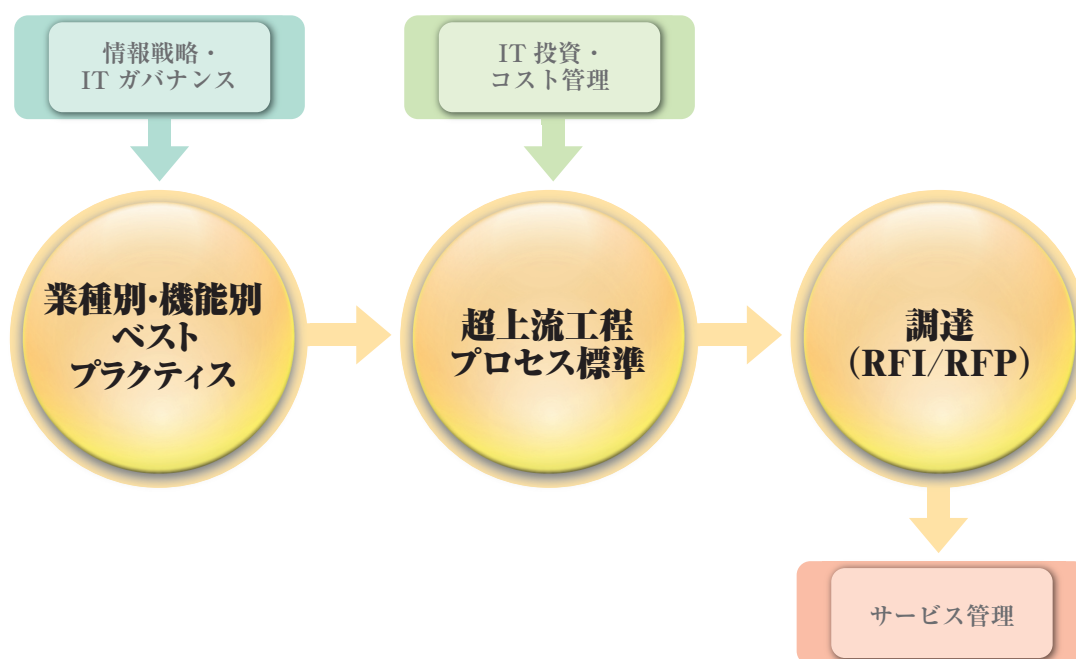
Business-IT Relationship

業務・ITリレーション

Business-IT Relationshipでは、事業部門と情報部門とが一体となって推進する、業務改革、及びシステム化の企画・計画に関わる手法・ノウハウを提供します。

これら手法・ノウハウを活用することで、業務課題に即した最適な業務改革・システム化の計画が策定できるとともに、それを実現する最適なソリューションやパートナーを選択することが可能となります。

Business-IT Relationshipは、業種別・機能別ベストプラクティス、超上流工程プロセス標準、調達（RFI/RFP）の3つのメソドロジから構成されています。



機能 \ 業種	素材・化学	電機・自動車	消費財	建設・不動産・住宅	流通・サービス	銀行	証券	生保・損保
全社	全社業務改革・カイゼン活動							
	経営統合（PMI）							
	ワークスタイル変革							
本社・ 間接部門	本社・間接業務改革／経営管理／管理会計							
	業務・システム統合							
	（金融業向け） 本社・間接業務改革／経営管理／管理会計 業務・システム統合							
マーケティング・ 販売	営業・チャネル改革							
	カスタマー・リレーションシップ・マネジメント（CRM）							
調達・製造	グローバルサプライチェーン改革							
	調達・購買改革							

超上流工程プロセス標準

本メソッドロジでは、現状把握から業務分析、全体プランの作成・評価まで、いわゆる超上流工程における、標準的なプロセスや成果物サンプル、及び 検討推進上のノウハウを提供します。多くのシステム開発のトラブルは、超上流工程での検討の漏れや、関係者間での共通認識の甘さに起因していると言われています。超上流工程での検討内容やレビュー・承認を含めたプロセスを標準化しておくことで、システム開発自体の品質を高めることが可能となります。

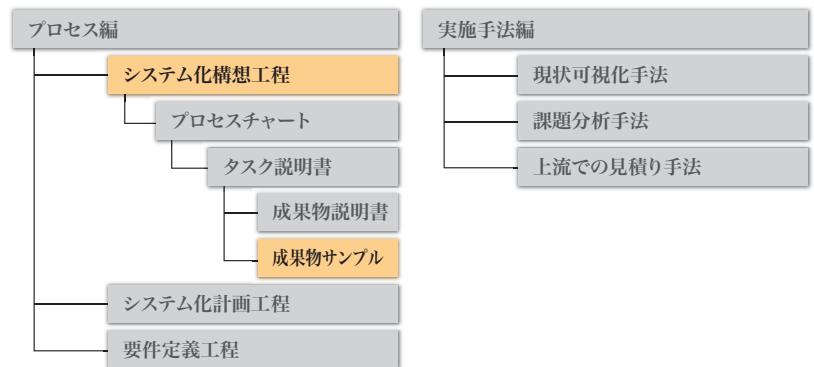
利点・期待効果

- 超上流工程における業務面、システム面での検討の抜け漏れを防止し、設計・開発工程への円滑な引き継ぎと、設計・開発工程での手戻りを抑制します。
- 開発コストや開発期間など、精度の高いシステム化計画をもとに、適切な意思決定ができます。
- 標準化されたプロセス・成果物を利用することで、超上流工程にかかるコストと期間を抑制することができます。

(活用する代表的な手法)

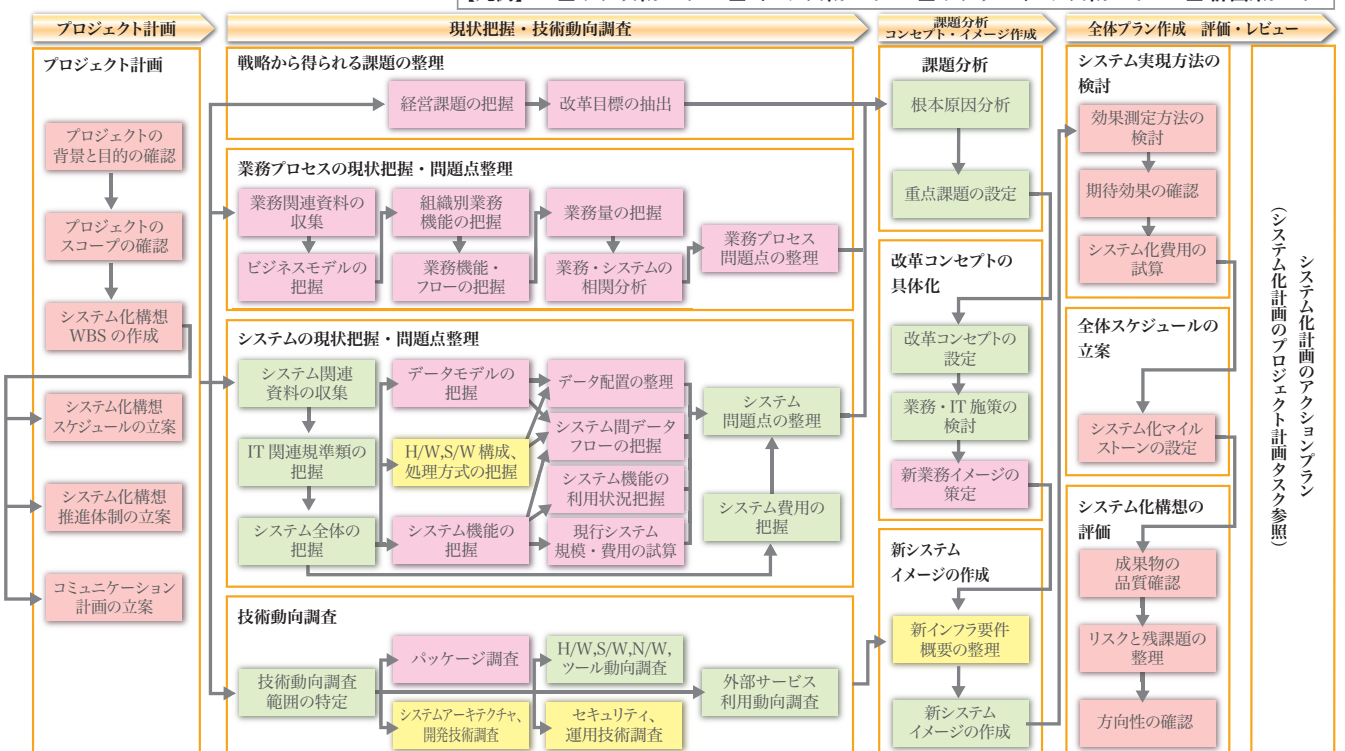
NRI超上流工程 プロセス標準

現状把握から業務分析、全体プランの作成・評価まで、NRIが実際のコンサルティング活動にて利用している標準プロセス体系、成果物サンプルなど



システム化構想工程小分類 (タスクマップ)

【凡例】 ■ アプリ系タスク ■ インフラ系タスク ■ アプリ × インフラ系タスク ■ 計画系タスク



（システム化計画のアクションプラン
システム化計画のプロジェクト計画タスク参照）

調達(RFI/RFP)

本メソッドロジでは、情報システムや情報通信機器、ITサービス等の最適な調達を実現する手法を提供します。具体的には、RFI/RFPなど、調達時における標準的なプロセス、成果物、及び 提案評価や委託先選定、条件交渉等に関する実践的なノウハウを提供します。調達する対象物や調達タイプ（随意、入札等）に応じた適切な調達手法を用いることで、最適なソリューション、及びパートナーを選択することが可能となります。

RFI：Request for Informationの略、情報提供依頼 RFP：Request for Proposalの略、提案依頼

利点・期待効果

- 網羅性の高い標準成果物を活用することで、委託先とのコミュニケーションロスを防ぎ、品質・実現性の高い提案を受けることができます。
- 提案依頼先からの見積もりや条件交渉において、抜け漏れのない対応ができます。
- 実践的な交渉戦術を活用することで、有利な契約条件を獲得することができます。

(活用する代表的な手法)

RFI/RFPテンプレート集

情報提供依頼/提案依頼と要求仕様書、Q & A シート、提案書の目次案、見積定型フォーマットなど、委託候補先へ提示するRFI/RFPに関するテンプレート集



必須項目	
業務・機能	提案要請で求めたXXXに関する業務要件について、実現内容、対応内容が明記されていること（例：デیلیー XX、同時販売数30 など）
インフラ	提案要請で求めた要件を実現するための、システムとしての対応方法や処理方式が明記されていること（例：2センターの稼働方式、XX申込のターンアラウンドタイムX秒 など）
移行方式	現行システムから新システムへの移行、新旧システムの並行稼働について、要件を実現する対応内容や処理方式が明記されていること（例：同一XXの新旧システムでの二重支払いを回避 など）
インテグレーション	・現行業者や端末業者を含めて、全体的な統括、管理能力などの要件を実現する、対応内容や方式が明記されていること ・体制・スケジュールが妥当であるか、全体を取りまとめ開発、保守、運用を推進する意思が明確か、能力があるか
提案書の記載内容	システム更改提案要請書「記載依頼事項」で指定した内容が提案書に記述されているかについて、充足度合いを確認する

加点点項目	
拡張性	新 XX の展開や事業規模の拡大に対応して、システムを柔軟に拡張できるか
可用性	大災害で運用センターが被災したり、システム障害が発生した場合の対応内容、そのような場合にシステムサービスをいかに継続できるか
計画・管理力	システム開発プロジェクトの管理能力や、システム稼働後の運営能力が優れているか
保守性	・XXの変更を行なう場合に、保守容易性をどれだけ確保しているか ・標準的なソフトウェア製品をできるだけ使っているか ・ソフトウェア製品に不具合が発生した場合に、迅速な保守サポートが可能か
実績	提案内容と同等のシステムについて、構築・運用実績があるか
セキュリティ	セキュリティ面からみて、データの改ざん防止、偽造対策等が優れているか
具体性	提案内容について、業務運用の検討、全体の統括管理、システムの性能評価等について、どこまで深く実現性を検討しているか
追加提案内容	提案要請で求めた必須項目以外に、優れた追加的な提案をおこなっているか

提案評価項目

委託候補先から提示された提案書を、「必須項目」と「加点点項目」とに分類し、スコア方式で評価する手法